

第2回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 議事録（概要）

1 日時

令和3年（2021年）12月17日（金）14時30分～16時30分

2 場所

水前寺共済会館グレース ア 芙蓉

3 出席者

八幡英幸委員、出川聖尚子委員、野口泰喜委員、小多崇委員、足立國功委員、吉田孝平委員、志波典明委員、吉永公力委員、馬場敬子委員、松岡隆恭委員、牛田卓也委員、池田廣委員、田中万里委員、松島雄一郎委員、夏木良博委員（計15人）

4 概要

（1）開会

（2）出席者紹介

事務局が出席者紹介をし、設置要項第6条第2項の規定に基づき、本会が成立することを報告した。

（3）日程説明

事務局が会議次第の説明をした。

（4）会議の公開・非公開

八幡会長が、運営要領の第5の規定に則り、会議の公開・非公開について諮った。委員から異議なしで公開を決定した。

（5）議事

○第1回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会の論点整理等について

○入学者選抜制度の現状と課題について

ア 本県における入学者選抜制度の現状と課題について

イ 入学者選抜制度の全国的な動向について

ウ 主な都道府県の入学者選抜制度について

<配布資料>

・第2回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 会議次第

【事務局】

資料1により第1回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会の論点整理等について説明した。

後ほど、第1回検討会で委員から要望のあった他県の入学者選抜制度の事例及び質問事項に回答する旨説明した。

【八幡会長】

事務局が提示した他県の入学者選抜制度の事例を見ながら議論していくことを委員に確認して了承を得た。

【事務局】

資料2により前回質問のあった県外からの合格状況について説明した。

【松島委員】

県外募集は、県内の受検生をまずは優先させるということによいか。

【事務局】

その通りである。

【松岡委員】

県内の生徒を優先させるということからすると、球磨工業高校建築科伝統建築コースの県外募集20%という枠が大きい数字だと思うが、20%に設定してある理由は何か。

【事務局】

球磨工業高校は特色ある学科・コースを設置する高校ということで、切磋琢磨して勉強していただけないかということで特例を設けている。特例は無条件に設けるものではなく、状況を見て判断、承認している。

【小多委員】

越境して熊本県の高校を受検してくる理由は何か。特色か地理的なものか。

また、県外流出の現状を知りたい。

【事務局】

調査したわけではないが、特色と地理的なものの両方があるように聞いている。県境入試の場合は生活圏が同じであるということ、全国募集については全国に稀な学科が含まれているのでここで学びたいということがあると聞いている。

県外流出の状況については、資料がないため時間をいただいて回答を検討する。

【八幡会長】

第1回で話題となった私学の状況について事務局から説明をいただく。

【事務局】

資料3により本県における中学校卒業生数及び卒業予定者数の推移、資料4により公私立高等学校募集定員の推移について説明した。

資料5及び資料6は、熊本県私立中学高等学校協会から提供いただいたものであることを紹介した。資料5により過去3年間の県内の私立高等学校全体の入試状況、資料6により令和4年度の熊本県私立高等学校の生徒募集一覧を紹介した。

【池田委員】

資料5について、私学受検者の約80～90%が1月入試の受検者、約10～20%が2月入試の受検者である。私学受検者の約80%が熊本市内に所在する高校の受検者で、約20%が熊本市以外に所在する高校の受検者である。私学の場合は1月の専願、特待、奨学、2月の一般に分かれており、受検者数は重複している。

資料6について、全てを把握していないが、自身が勤務する学校においては看護学科は定員を充足しているが、総合技術科は定員を割っている。毎年大体私学では5、6校が定員を充足している状況である。

【八幡会長】

次に、前回に引き続き、入試制度の趣旨や課題について改めて振り返り、議論の出発点としたい。

【事務局】

資料7により本県における近年の入学者選抜制度の趣旨と課題等について説明した。

【小多委員】

前期（特色）選抜は、導入されたときの3つの柱については変更ないのか。趣旨としてこの3点をもって必要性を位置付けているという認識でよいか。

【事務局】

今でもそのような趣旨である。

【小多委員】

受検機会の拡大という趣旨について、県教委で何か評価していることはあるか。

【事務局】

受検機会の拡大という趣旨は現行制度まで引き継いできているが、今後についてはこの場でいろいろな御意見をいただき、それを踏まえて検討していきたい。

【八幡会長】

受検機会の拡大の重要性はなくなるものではないと思うが、今後の具体的な議論の中で方向性が出てくるのではないかと。状況の変化の中でいろいろなファクターについての重みづけがどう変わってきているのかが重要になるのではないかと。

【松岡委員】

前期（特色）選抜において学力検査がなくなった経緯を知りたい。

【事務局】

資料8にある現行の前期（特色）選抜の趣旨を重視し、学力検査をなくしている。平成17年度からの入試で導入後の課題として独自問題等に関する課題があったことも背景としてはあるかと思うが、平成24年度からこのような趣旨で実施しているということで御理解いただきたい。

【八幡会長】

この後は、他県の事例を検討しながら考えていく。

【事務局】

資料8の入学者選抜制度に係る用語等を紹介した。全国で実施している入学者選抜を5つのパターンに分類した資料9により他県の例を挙げながら説明した。資料10の九州・沖縄地区における公立高等学校入学者選抜制度の概要、資料11の全国の入学者選抜の実施状況を紹介した。長崎県教育委員会作成の資料12、千葉県教育委員会作成の資料13、静岡県教育委員会作成の資料14及び資料15を参考資料として紹介した。

【八幡会長】

たくさんの情報を集めていただき、他県の状況や全国的な動きが視野に入ってきた。

【牛田委員】

佐賀県のスポーツ、文化芸術の特別選考について指定校は学校の希望か。多くの学校が指定校になっているのか。

【事務局】

佐賀県の要項によると、指定校が一覧で示されている。

【牛田委員】

指定校を希望した学校について県で審査して認めていこうという感じだろうか。私が調べた資料では、学校希望に基づく募集枠で指定校が29校ということで、スポーツ推薦を多くの学校で行っている。

【事務局】

学校希望に基づく募集と教育課程に基づく募集枠、セラミックなどに特化したものもある。

【小多委員】

関東近辺の県において、一般入試1本にシフトした背景は。

【事務局】

詳細は把握していないが、資料19ページに千葉県のQ&Aを載せている。「一本化することで何が変わるのか」という問いに対して、「中学校での授業時間が増え、学校生活がより充実したものになります」とある。

【八幡会長】

一本化が広がっているのではないのか？

【事務局】

13ページの表の3番の一般入試のみということでの一本化と4番の日程は一つだがその中で複数の選考をするという形の本一本化がある。広島県は令和5年度入試から、群馬県は令和6年度入試から4番のパターンに変わるとうかがっている。

【八幡会長】

九州沖縄を見ると、推薦入試がかなり残っていると思う。全国的には推薦入試はなくなってきている状況か。

【事務局】

以前推薦入試を行っていたところが学校の推薦を必要としない入試に変わったり、一本化したりと少しずつ変化しているように思う。なぜそうなのかについては少し分析が必要。

【事務局】

補足として、福岡県は一時期推薦入試以外のやり方で実施していたが、近年推薦入試を導入したというような逆のパターンもある。

【八幡会長】

委員の皆様はいろいろな立場から参加いただいている。ぜひそれぞれの視点から自由に御意見を賜りたい。

【野口委員】

30数年前に比べて、私立の方が充足率が高く、公私立の割合が都会のような傾向になってきている。授業料が実質変わらなくなったことで公平に受検ができるようになったのではないかと思う。特に郡部の県立高校では定員割れがあるようだが、二次募集をしてもどれだけ充足するかということもあり、魅力ある学校づくりという部分が出てくると思う。

特色ある学科に合格したがミスマッチなどがあった場合、コースを変更するということはあるか。

【事務局】

高校の場合、学科やコースによって大きく教育課程が異なっている場合が多くあり、個々の状況にもよるがなかなか難しいと認識している。

【牛田委員】

特別支援学校の校長も構成員となっている教育課題委員会という会議で意見を聞いてきた。特別支援学校では二次募集後の追加募集がある。今回は日程の前倒しでやりやすくなったと聞いている。この観点も考慮すべきだと思う。

入試制度については、何を優先するかをしっかりと検討する必要がある。

【吉永委員】

今回、入試日程がいきなり変わった印象を受け、現場としては戸惑いが大きかったようだ。入試日程が早くなったことは子供を救うためであるが、合格から卒業までの対応等、現場の悩みもある。

高校の魅力化については、努力は分かるが、保護者や子供になかなか伝わっていない現状があると聞いている。〇〇ハイスクールなどいろいろあるが、教員も保護者、生徒も理解が難しく、中学校も努力はしているが丁寧に伝えるような余裕や時間はあまりないように見える。

選抜手数料のコンビニ決済については、納入確認のための対応などもあり、中学校も子供たちの進路に向けて様々対応している状況がある。

前期（特色）選抜の募集定員を7割とした学校は、後期（一般）選抜では3割しか募集できないということか。

【事務局】

後期（一般）選抜の募集定員は、前期（特色）選抜と中高一貫校連携型に係る入学者の合格内定者数を減じた数になるため、前期（特色）選抜の内定者が70%に満たなかった場合は、その残り30%を募集するという形になる。

【松島委員】

今回の入試日程の前倒しについては、いろいろな事情はあるが、保護者としては印象として早いという意見が多い。

働き方改革について、先生方の入試に係る負担が大きいのであれば、一部は保護者に担ってもらっても良いのではないか。

【田中委員】

高校入試については保護者の中でよく話題になる。郡部の高校の定員割れについて、特色化が見えづらい、分かりづらいという意見が保護者からある。

高校入試は該当の家庭にとっては一大イベントであり、保護者は子供を進学塾に通わせるなどしていることも多い。「子供が何になりたいか」を考えると、「大学に進学できるのか」を考えて高校を検討することも多い。郡部の高校の定員割れを考える上では本当の意味での特色ある高校をつくる必要があるのではないかと。

子供たちはSNSでどの高校にどんな特色があるかということを知っている。これからの魅力の発信においてはSNSを使った方法もあるのではないかと。

【足立委員】

私学が創意工夫し、選抜の多様化については私学が先行しているのではないかと。

【池田委員】

何をしているから生徒が集まっているのかというのは各学校そこまで把握はできていないと思う。受検生増加の背景として、市内に所在しているということはどの私学も思っていること。総括すると、8割、9割の受検生は1月に受検しており、その中には郡部からの受検生も非常に多い。令和4年度の入試では私学の4校がウェブ出願にしている。コンビニ決済の形とし、中学校の先生方に御負担をかけるのは調査書だけという状況。高校側の事務も効率化された。

私学では、ホームページ、SNSを使って努力して発信している。県立高校でも専門高校などがいろいろな取り組みをしていて感心しているが、それが中学校の先生や保護者に伝わっていないということがないように、情報発信に難しさがあるのではないかと。

【松岡委員】

菊池郡市の校長会で尋ねたところ現行制度に賛成するが45%、現行制度に反対するが27%、判断が付き兼ねるが28%であった。現行制度については、受検機会が多く、安心感があるというものが賛成の主な理由。反対の理由としては、前期（特色）選抜の合格者と後期（一般）選抜を受検する生徒への対応の難しさ。

働き方改革に関連して、ネット出願を早く実現していただけるとありがたい。教員の業務負担を軽減することで他のことに時間を生かせると思う。私学でもすでにされていることを県立でも取り入れていただきたいという意見があった。

【志波委員】

入試制度が複雑になってきており、単純化することを検討するのも必要ではないかと。高校入試が義務教育9年間の教育の姿をはかるものと考え、各学校は学習指導要領のもとで教育活動を進めてきたので、学力検査をしっかりと行う必要があると思う。学校の特色化として傾斜配点を導入しても良いのではないかと。資料9の3と4を融合させたような形という方向性が一つあると考える。学力検査を行い、子供たちが最後までしっかりと学んでいくことを重視しなければならない。前期（特色）選抜が終わると一つの学級の中で学びを維持していくのが難しいという現実的な声もある。

【夏木委員】

他県の特別選抜について、人材をどのような趣旨で確保しているのか。「生徒中心の活性化」という観点かどうか。導入の経緯を調べてほしい。

【小多委員】

入試制度改革について、何を指すのかが重要である。定員割れの学校を救うのか、子供たちが生きていく上での進路実現を目指すのか。定員割れをどうにかしなければならないということだけが目的になってはいけないのではないか。

学校現場の負担軽減については、意味づけは必要だと思うが、それだけで良いのかという思いがある。

【八幡会長】

何のための入試改革なのかという根本的な問いを改めて提起いただいた。他県の状況も見ながら今回意見が出てきたので、今後さらに意見を深めていければよい。それぞれ様々な組織から参加しておられるので、所属先でこの問題についての意見を聴取いただき、次回の委員会にお持ちいただければありがたい。

【事務局】

各委員からいただいた意見について、事務局から補足をさせていただく。県立高校の魅力化については鋭意努力しているところだが十分でないという御意見も踏まえて、高校の魅力化を発信する特設ホームページを開設した。各校の取組の動画、進路状況など見られるようになっており、チラシ等ともあわせてPRしているところである。

大学進学等の御意見に関しては、熊本市内の普通科の実績以上に熊本市外の複数の高校が難関大学や海外の大学に合格している状況もある。その他、国の研究指定として、理数教育に特化したスーパーサイエンスハイスクールや専門高校のスーパープロフェッショナルハイスクールなど、学校の強みを生かしながら取り組んでいる。もっと広く県民の方に知っていただけるようしっかりPRをしていきたい。

【事務局】

今回は2月下旬から3月を目途に開催を予定している。詳細は書面にて改めて連絡する。

【事務局】

これをもって第2回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会を閉会する。

以上